

## やまがた攻めの米づくり日本一運動事業費

事業評価個票（事業実施：平成30年度）				部局名	農林水産部			
短期アクションプラン	テーマ	テーマ4_地域の豊かさを支え、高いブランド力で国内外に展開する農林水産業						
	施策	施策2_水田農業の収益性の向上						
	目的	「つや姫」をはじめとした本県品種の「売れる米づくり」の取組みや生産基盤の強化を図り、収益性の高い水田農業を実現する。						
	目標指標(R2)	米による産出額	930億円					
	策定時の実績	—	現状	668億円(H26)	主要事業	県産米の付加価値向上と水田フル活用事業の推進		
事業名	やまがた攻めの米づくり日本一運動事業費		担当課・担当	県産米ブランド推進課 生産戦略推進担当				
事業開始年度	平成29年度		事業終了(予定)年度	令和元年度				
事業の目的 (目指す姿を3行程度で簡潔に)	平成3年から実施してきた米づくり運動の基本である高品質・良食味米生産の推進を柱に、平成30年度からの新たな米政策を踏まえた攻めの米づくり運動を展開する。							
事業概要 (5行程度で簡潔に)	<p>高品質・良食味米の安定生産に軸足を置きながら、新品種の導入を契機に県オリジナル品種を全面に打ち出し、消費者へのアピールと県内稲作農家の生産意欲の向上を図る。</p> <p>運動の方針として、高品質・良食味米の安定生産（一等米比率96%以上かつ全国1位）、特Aの連続獲得、環境に配慮した米づくり（特別栽培米栽培面積の拡大など）、所得を向上する米づくり（直播面積の拡大、低コスト多収栽培の実証）、消費者に愛される米づくりなどに取り組み、県産米の品質・食味の向上を図っていく。特に、高品質・安定生産を進めるうえで、県産米の一等米比率の低下要因となっていた着色粒等の除去ができる色彩選別機の導入支援を実施する。</p>							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・請負 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他 上記実施方法とする理由：一等米比率を向上させるため、法人、生産組織、JA等が整備する色彩選別機の導入を支援する							
予算額・決算額 (単位:千円)	費目(予算見積書のグループ名)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度		
	やまがた攻めの米づくり日本一運動	3,024	3,024					
	気象変動に即応した早期診断システムの確立	693	659					
	産米食味診断生産管理技術の開発	1,123	1,067					
	DNAマーカーによる原原種・原種の品質判別	341	324					
	米穀流通監視事業	65	62					
	新優良酒米等需要拡大推進事業	648	648					
	米の色彩選別機整備促進事業	10,000	15,000					
	県産米の食味検査体制再整備事業							
計	15,894	20,784	0	0	0			
財源内訳 (単位:千円)	国庫支出金	5,000	7,500					
	繰入金							
	その他特定財源							
	一般財源	10,894	13,284					
	計	15,894	20,784	0	0	0		
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	～平成30年度 色彩選別機の導入に係る交付決定件数	活動実績	台	14	13			
	令和元年度 食味分析計の導入に係る交付決定件数	当初見込み		10	15	5		
成果指標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標 (所管部局の分析)		単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	「つや姫」の価格ポジション (色彩選別機の導入により高品質・良食味米が生産され、付加価値が高まる)	成果実績	つや姫の 相対取引価格 60kg/円	18,360円	18,512円			
		目標値		魚沼産コシヒカリに次ぐ	魚沼産コシヒカリに次ぐ	魚沼産コシヒカリに次ぐ		
		達成度	%	100	100			
関連事業	山形「つや姫」「雪若丸」ブランド化推進事業費							

## 事業目標の考え方(事業目標設定時)

米の品質を示す指標である一等米比率は、本県では高く維持しているが、90%を超えても日本一には達していない。平成28年の一等米比率は95.4%で全国2位、平成29年の1等米比率は94.0%で全国2位であった。米の品質の高い県であるということを浸透させ、県産米全体の評価向上につなげる必要がある。

## 事業所管部局による評価・検証

	項目	評価	評価に関する説明
事業目標の妥当性・達成度	事業の目的は県民や社会のニーズを的確に反映しているか。	A	<p>・県産米の高品質・良食味生産の取組みを展開しており、県民のニーズを反映していると考え。また、稲作農家の所得向上のために優先度の高い事業である。</p> <p>・目標水準はつや姫の60kgあたりの相対取引価格と設定しており活動の成果を判断できる水準である。</p> <p>平成30年産米の相対取引価格は以下のとおりである。  1位 魚沼コシヒカリ 21,462円  2位 山形つや姫 18,512円  3位 山梨コシヒカリ 18,187円  これらは整備された機材(色彩選別機)が活用された結果である。</p>
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。	A	
	目標水準は妥当か。	A	
	期待する成果が得られたか。	A	
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	A	
事業内容の妥当性	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	A	<p>・各地域本部や構成団体と事業計画を検討し、計画に沿って活動した。</p> <p>・G8色彩選別機整備促進事業については受益者に応分の負担として1/2を求めている。G1やまがた攻めの米づくり日本一運動について負担金割合は県と構成団体でそれぞれ1/2としている。</p> <p>・G2気象変動に即応した早期診断システムの確立やG3産米食味診断生産管理技術の開発等では費目・用途を必要なものに限定し実施している。</p> <p>・事業実施に当たっては効果的な手段・方法等を検討し、コスト低減に努めた。</p> <p>・生産者、生産者団体、行政が一丸となって県産米全体の底上げに取り組んでおり、類似の事業はない。</p>
	支出先の選定は妥当か。	A	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	A	
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	A	
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	A	
	類似の事業がある場合、他部局等と適切な役割分担を行っているか。	A	
の役割分担	市町村、民間等に委ねることができない事業なのか。	A	・県が主体的に取り組む事業。
今改善の点課題	<p>県産米の高品質・良食味生産の取組みを展開し、県内の稲作農家の生産意欲を高揚する。  今後は色彩選別機の活用のほか、食味分析計の整備を進め、県産米全体の評価向上につなげる。</p>		

・事業所管部局による評価にあたっては、以下の4つの選択肢から、1つを選ぶこと。

A: 目標を上回って達成する見込み。期待通りの成果(100%以上)。妥当。

B: 目標を概ね達成する見込み。概ね期待通りの成果(80~99%)。概ね妥当。

C: 改善の余地あり。期待した成果を下回っている(79%以下)。

ー: 該当しない